

有害鳥獣対策「学び合う」交流会

舞鶴市農委会など

【京都】舞鶴市で11月24日、農業委員会と猟友会などの主催で「有害鳥獣対策『学び合う』交流会」が開かれ、農業者や猟友会関係者など約160人が参加した。写真。「みんなが先生 みんなが生徒」

を合言葉に、市内で成果があった捕獲おりや防護柵のアイデア写真を見ながら先駆者の実践報告を聴き、現場で鳥獣に効く方法を学んだ。交流会では、「猪や猿が好む餌の置き方」「おりからの脱出を防ぐ仕掛け」など、猪、鹿、猿、熊を撃退、捕獲する具体的方法を10人が披露。対策推進のため情報を交換した。

交流会を提案・企画し実行委員会の事務局を担ったのが同市農業委員会（石東輝己会長）の「有害鳥獣対策委員会」

（関本長三郎委員長）だ。春から夏に間に農業委員が分担して各地区で、「優れた有害鳥獣対策を実践している人」の情報収集。関本委員長を中心に現場で体験談を取材し、地域別・獣種別の対策をスライド資料に取りまとめた。

関本委員長は「交流会の成果を共有し有害鳥獣に農家が負けないよう農業委員会・JA・猟友会・行政で力を合わせて引き続き頑張りたい」と力強く語った。

